

大阪損保革新懇ニュース

大阪損保革新懇事務局

大阪市中央区道修町3-3-10

日宝道修町ビル3F

06-6232-1095

日本に
原発は

福島、6年目の真実(いま) 講演会に54名参加

東日本大震災と福島原発事故から6年目の前日、3月10日(金)アイクルの部屋の隣の308号室で『福島、6年目の真実(いま)』—日本に原発はいらぬ—と題した講演会を開催し54名が参加しました。福島県飯館村の酪農家・長谷川健一さんが、政府はなぜ帰還を急ぐのでしょうか」「福島は本当に『復興』したのでしょうか」と現状について切実に語りました。

前日「報道ステーション」に飯館村で生出演のあと来阪され私たちに講演していただきました。翌日は大阪革新懇・美術家革新懇や京都などで講演されました。

講演終了後、恒例の手づくり料理で楽しく懇談し、参加者からの質問に丁寧に応えてい

講師：長谷川健一さん

(福島県飯館村の酪農家)

講演要旨

飯館村では今月の末に避難が解除されるということなんですけども、帰るに帰れないというのが現状です。昨夜の報道ステーションでは、私の思っていることをじっくり話させてもらいました。本当にこれでいいのか、これからどうなるんだということを番組がやったんですね。色々反響があったようです。

飯館村は福島第一原発から一番近いところで約30キロ、一番遠いところで45キロあるんです。ところが大爆発が起き、飯館村をめがけたように北西に放射能が流れたんですね。しかしこれが、国によって隠され、福島県によっても隠された。それによって我々は無意味な被ばくを続けていた。

京都大学の今中哲二先生が飯館村にやって来ました。3月の末です。そして飯館村の線量をつぶさに測ってこう言った。「おそろしいことだ。こんな線量の高いところに人が住んでいるなんて信じられない」。そして今までとったデータを示して、「村長さん飯館村危ないよ。ただちに全村避難をかけるべきだ」と提言したわけなんですけど、それは全く拒否された。あんた飯館村に来んなど。それにめげずに今中先生のグループは、毎年飯館村に入って来て線量の調査をしていただいています。そして1年に1回は飯館村シンポジウムというものを開い



講師の長谷川健一さん

ていただいています。

そもそも事故は起きないということになっていました。そして飯館村なんかは原発の恩恵なんてなにもなかったわけですから、起きててもまさか30キロ以上離れた飯館村に来るわけではない、そんなふうみんな思ってたわけです。ところが来てしまった。全国の自治体から飯館村の皆さんぜひいらしてください、受け入れ体制が整っていますよということを言われたんです。しかし残念ながらそれは全て断ってしまった。

こうした強引な村長に対して、私も区長として申し入れを行ってきました。我々が避難しないのであればせめて子どもたちだけでも避難させなきゃダメだと。しかしこう言われた。「長谷川さんそんなこと言ったら子どもだけ避難させるわけにはいかないんだよ。親も一緒に避難しなくちゃいかん。そんなことやったら村がゴーストタウンになっちゃうよ」と。

(P・1からのつづき)

私は8人家族同居の生活、そして50頭の牛を飼って酪農を営んでおりました。しかし放射能については東海村の臨界事故が頭から離れなかったんです。あの時に一番先に放射線物質が検出されたのは牛乳とほうれん草なんですね。それがずっと頭に残っていたもんですから、こりゃひよっとするとダメだなと思ってたんですね。

だから私は3月16日の朝に、孫たち、子どもたちは避難させました。そのとき長男に言いました。「酪農はダメになるかもわかんないぞ、覚悟しておけよ」と。しかしそれが本当になってしまいました。

私は酪農家ですから牛をどうするのかは重大な問題です。人間は避難をなさい、牛は置いてけ？そんなことできるわけないだろうということで、福島県とも交渉やったんですけども、知事にこう言われた。

「酪農家の親牛すべて屠畜しなさい」。すると色々な出来事が起きてきた。「原発さえなければ」と書置きを残して私の友人である隣の相馬市の酪農家が自殺をしてしまいました。

原発の事故はこの日本では絶対に起きない、絶対がついていたわけですよ。だから除染の研究とかそういうもの一切やってこなかった。さあ除染をやんなくちゃ。

どうやってやるんだ。誰もわからない。結局やったのは屋根に上がってペーパータオルで瓦を一枚一枚拭く。極め付けは道路の法面、きれいに草を刈りとって箒で掃いてます。そしてこれをはき落としたものをフレコン（ポリエチレンなどの袋）に入れるわけです。ここに我々の線量計を持っていくと針がビューンと振れます。

そして農地は5センチのはぎとりをやってます。はぎ取ったあとには山の汚染されていない土を5センチ盛るわけです。それで線量は一応下がります。でもほんとに下がったんじゃないんです。遮蔽をしてるだけなんですね。そしてたくさんのフレコン群ができています。その数が飯舘村で235万個。そして福島県全体で約2200万個とされています。そして環境省

が発表した平成29年度運び出す予定数量が50万個。50万個ですよ。それに対して県全体で2200万個、何十年かかるんですか、これ。

家族ばらばらにされ、仮設住宅に押し込められて、故郷見れば汚染されていていつ帰れるのか分からない。元の故郷には絶対戻れないんですよ。そういう状況にされて黙っているというのはどういうことなんだろうと私は思うんです。私も区長ですから仲間もおります、原子力賠償紛争解決センター、いわゆるADRに申し立てをしようということになりました。そのほかの行政区も含めると飯舘村民の約7割の人たちが申し立てをやっています。弁護士が「飯舘村民救済弁護士」という名前をつけて、スローガンを「謝れ 償（まや）え、かえせ故郷 飯舘村」としました。普通はつぐなえと読むんですけどね、我々の方言でまやえという言葉がある、意味は同じなんです。

そんな中でいよいよ今年の3月31日に避難が解除されるということですけども、まずはインフラとか医療の部分でどうすんの、買い物どうすんの、帰りたい人戻ってどうやって生活していくんだ。ハードじゃなくてソフトな部分、それがまったく置き去りにされて避難解除という部分だけが先行した。とんでもない事態になっています。

私はいつかは帰るつもりです。しかし今はそんな状況じゃない。村民が安心して帰れる村にするために力を尽くしたいと思っています。ご支援よろしく願います。

次回講演会

アメリカはどこへ向かうのか

4月14日(金)PM6:30~

会場：308号室(アイクルの部屋の隣り)

講師：大塚秀之さん

(神戸市外国語大学名誉教授)

参加費1000円 懇親会1000円

